

## 芳醇な香味と水色優れる多収性品種「つゆひかり」

### 〔研究のねらい〕

- ・静岡県の茶栽培面積のうち90%以上が「やぶきた」で占められています。
- ・近年、摘採期の集中化や香味の画一化等「やぶきた」偏重の弊害が顕在化しているため、収量性、品質に優れ、「やぶきた」とは早晚性の異なる品種を育成する必要があります。

### 〔研究の成果〕

- ・品種登録：2003年(平成15年)
- ・来歴：種子親「静岡7132」×花粉親「あさつゆ」
- ・交配年：1970年(昭和45年)
- ・早晚性：「やぶきた」に比べて2日程度早いやや早生
- ・樹姿：中間型
- ・樹勢：極強
- ・耐寒性：赤枯れ「強」
- ・耐病性：炭疽病「強」、もち病「やや強」
- ・被覆適性：高い
- ・収量性：成木「多」、幼木「極多」

10a当たり収量は、「やぶきた」に比べて本場では一番茶で129%、年間で131%と多収です。

山間地では一番茶が106%、年間で126%です。

- ・品質：「上」

総合的に「やぶきた」と同等以上です。明るいエメラルドグリーンの水色に加えて、さわやかな香気とうま味があります。



写真 一番茶新芽



写真 「つゆひかり」の水色

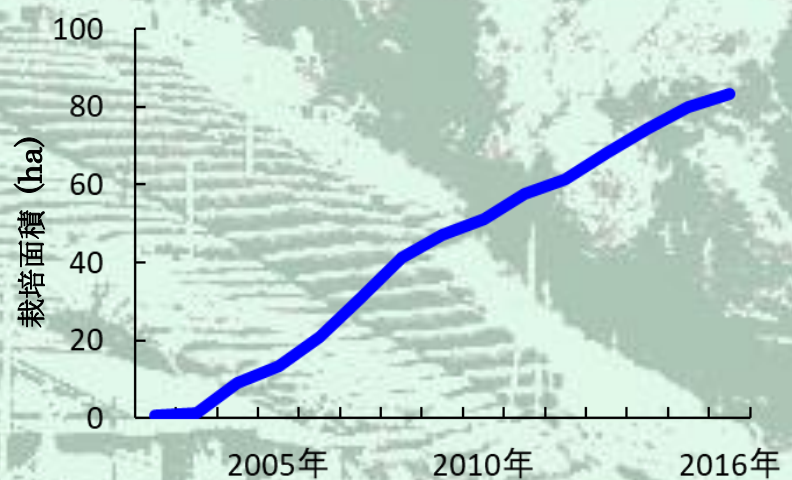


図 栽培面積の推移